

ロゲイニングとのかかわり

私たち、ホールアース自然学校は富士山麓に本拠を置き、静岡県内の他、沖縄、新潟そして神戸・六甲山にも拠点を持つ、民間の環境教育団体である。

本誌2013年4月号で、村越さんに紹介していただいたとおり、沖縄県内で2010年以降、那覇市内（首里城周辺）、名護市内、そして石垣島でロゲイニング大会を開催している。

沖縄県内の開催実績から、ロゲイニングは地図とコンパスを使ったナビゲーションスポーツである、オリエンテーリングの入門としての位置づけだけでなく、地域の知られざる魅力をポイントに設置することで、新たな地域発見にもつなげられるのでは、という手ごたえを感じている。

私がいるホールアース自然学校神戸六甲分校が活動フィールドとしている六甲山は、関西ではかなり知名度のある観光地であり、また登山やクライミング等、アウトドア体験のフィールドとしても馴染みが深い。加えて、戦前から観光開発が進められており、山上には牧場、植物園、遊園地といった観光施設が多数ある。さらにケーブルカー、ロープウェイ、路線バスという公共交通機関も充実しており、アクセスが容易ということも大きな特徴である。

そんな避暑地・六甲山だが、阪神淡路大震災以降、観光客が減り、かつて300軒以上あった保養所も多数が閉鎖されるなど、かつての賑わいが失われている。これまで山上の事業者を中心に、行政とも連携しながら様々な取り組みを行ってきた。

その1つに、阪神総合レジャー／阪神電鉄が主催する「六甲ミーツ・アート芸術散歩」がある。今年で4回目を迎えるこのイベントは、六甲山上の様々な施設内に、30組ほどのアーティストの作品が展示され、秋の六甲山を巡りながら作品を鑑賞できる。

来訪者は作品が展示されている施設の入場券がセットになった、周遊券を購入して作品を鑑賞することになるのだが、単に作品を見て回るだけでなく、秋の六甲山の自然や絶景スポット、知られざるパワースポット！も合わせて紹介できないだろうか…。そんな中から出てきたアイデアが、ロゲイニング大会である。

六甲山ロゲイニング大会の開催

2011年と2012年の2回、いずれも10月下旬に「六甲山カンツリーハウス」を発着として、制限時間4時間のロゲイニング大会を開催した。

開催に当たっては、「六甲ミーツ・アート芸術散歩」事務局から全面的に協力を受け、山上に点在する作品もポイントに設定した。また、主要なハイキング道や三角点、眺望スポットもポイントに設定した。

過去2回の参加者は、第1回（2011年）が136名、第2回（2012年）が123名と、120名を超える参加者を集めることができた。

参加者の声を聞くと、「アート作品を巡る楽しみに加えて、地図を片手に宝探しをするような楽しみがあった」「家族で参加したが、みんなで協力して楽しい1日を過ごせた」

「六甲山は何度か訪れているが、知らない場所を教えてもらった」等々、予想以上の反応に驚いた。



<六甲山ロゲイニングスタート！>

この六甲山ロゲイニング大会を毎年秋の定期イベントにしていこう、という方向性は固まったが、より多くの方にロゲイニングの魅力をしてもらうために、「入門編に当たるものがあつた方がよいのでは」という発想から、今回、神戸市立森林植物園でのロゲイニング体験会（今回はミニロゲと称した）を実施することとなった。

ミニロゲ in 森林植物園の開催

会場となった神戸市立森林植物園は、面積142ha、樹木を中心として1200種が栽培されている植物園である。この園内全体をフィールドと設定したが、1キロ四方ほどであるため、制限時間は90分と短く設定した。

イベントのターゲットは、小学生を含む親子、最近増えている山ガール等、アウトドアに興味を持ち始めた若者を想定し、表彰対象とする部門は「ファミリー」「一般」の2つとシンプルにした。

なお、今回ミニロゲを開催するに当たり、多大な協力をいただいたのが、尾上俊雄氏はじめ、兵庫県オリエンテーリング協会の方々である。25年ほど前に作成された森林植物園のオリエンテーリングマップを改訂していただき、1:5000の正確なマップを仕上げていただいた。

また、一般的なオリエンテーリング大会では既に普及しているSIシステムも、機器の取り扱いから集計ソフトの使い方に至るまで、丁寧に指導いただいた。

過去2回の六甲山ロゲイニング大会は、いわゆる「フォトリゲ」と呼ばれる写真見本と同じ写真を撮ってくることで、コントロールの通過証明としてきたが、今回は少人数での運営ということもあり、初めてSIを使った競技とした。



山ガール？もミニロゲに挑戦！

ミニロゲ当日の6月2日（日）は、曇空で時折小雨が降る空模様となったが、24組・65名（個人参加3名含む）が参加した。

初心者らを想定した今回は、開会式前にオリエンテーリング協会メンバーに

よる事前講習会を行った。ここでは、①ロゲイニングとは(概要・ルール説明)、②地図の見方(縮尺・磁北線、地図記号、色分け)、③コントロールでの通過証明方法、といった基本的な内容だったが、初心者から好評を得た。

13時からの開会式で改めてルール説明の後、いよいよ本番用の地図を配布すると同時に、各チームでの「作戦タイム」がスタート。ロゲイニングはチームで行動することが前提なので、予めどの順番で回るか、地形を見ながらの作戦が高得点のカギを握る。

今回のコースは森林植物園内に16カ所のポイントを設置した。いずれも小道の分岐や園内最奥部の展望台など、一般来園者が気づかない(あまり来ない)場所も数多くあり、終了後のアンケートからは「森林植物園にこんな山道があるとは思いませんでした」という驚きの声があり、設定した私としては「やってよかった!」と満足。

一方、ロゲイニングで苦勞することの1つは、制限時間をどれくらいにするか、ということ。短すぎるとほとんど回れずにがっかりさせてしまうが、逆に長過ぎるとポイントをすべて回ってしまい、点差がつきにくくなってしまう。

今回は初心者・ファミリーをメインターゲットとしたため、90分で十分だろうと想定した。ところが、参加者の中にオリエンテリング競技者があり、快調に回ってきたためトップは45分と制限時間の半分でゴールした(ただし、個人参加であったため表彰の対象外)。このタイムにはスタッフはもちろん、他の参加者もびっくりした。

16ヶ所のポイントをすべて回ると1000点満点の設定であったが、今回は一般部門で4チームが、ファミリー部門でも2チームが1000点満点となり、先着順に順位を決定することとなった。各部門、上位3チームが表彰され、賞状と賞品として六甲山オリジナルスイーツ(六甲山牧場の牛乳を使ったケーキ、六甲山の天然水サイダー等)のセットを贈った。

参加者からは、「想像以上に真剣になってしまい、疲れたが、達成感もあり楽しかった。地図を見なくてもある程度分かると思って始めたが、すぐに迷ってしまいきちんと地図を読むことも大事だということがわかった。子供たちも楽しめていたようです」と、こちらが意図していたように、ナビゲーションスポーツの楽しさ、奥深さと、親子での楽しいひと時を同時に体感し

ていただくことができたと思う。

今回のミニロゲでナビゲーションスポーツの楽しさと、六甲山の魅力を感じていただいた方と、秋に開かれる六甲山ロゲイニング大会で再び会えることを楽しみにしている。(大武圭介)

●六甲山ロゲイニング大会

日時:2013年11月3日(日)
場所:六甲山カンツリーハウス
詳細が決まり次第、専用HPで紹介。
<http://www.rokkosan.com/playrokk/>



<最後に全員で記念撮影>

